

平成27年度文部科学省指定

「キャリア教育・就労支援等の充実事業」

研 究 紀 要

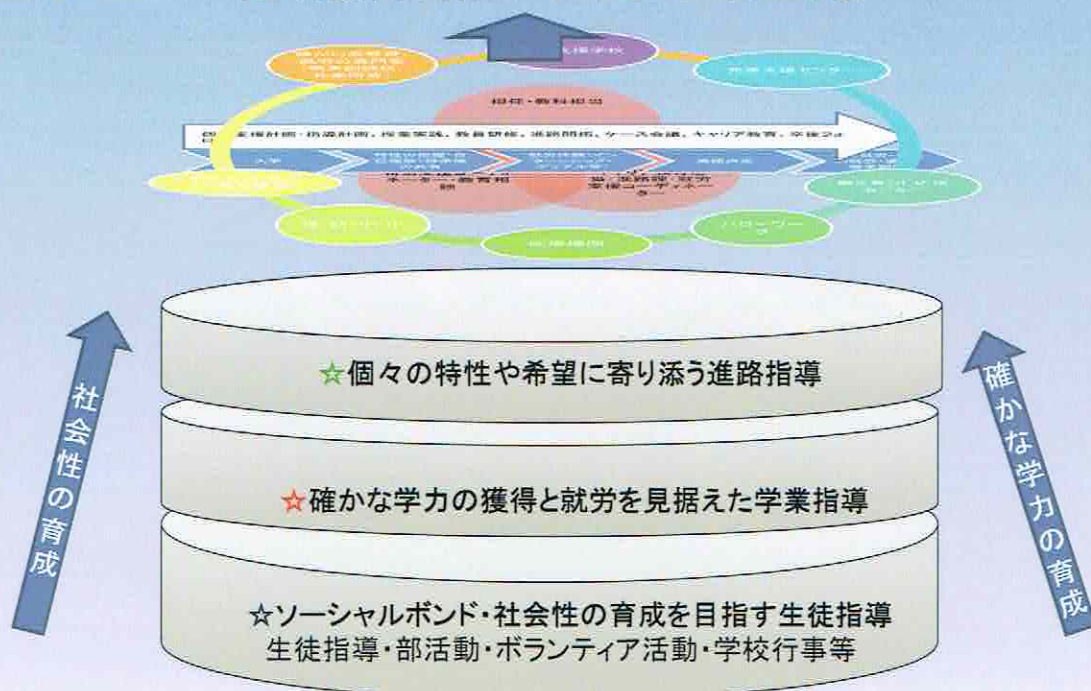


平成28年3月
滋賀県立湖南農業高等学校

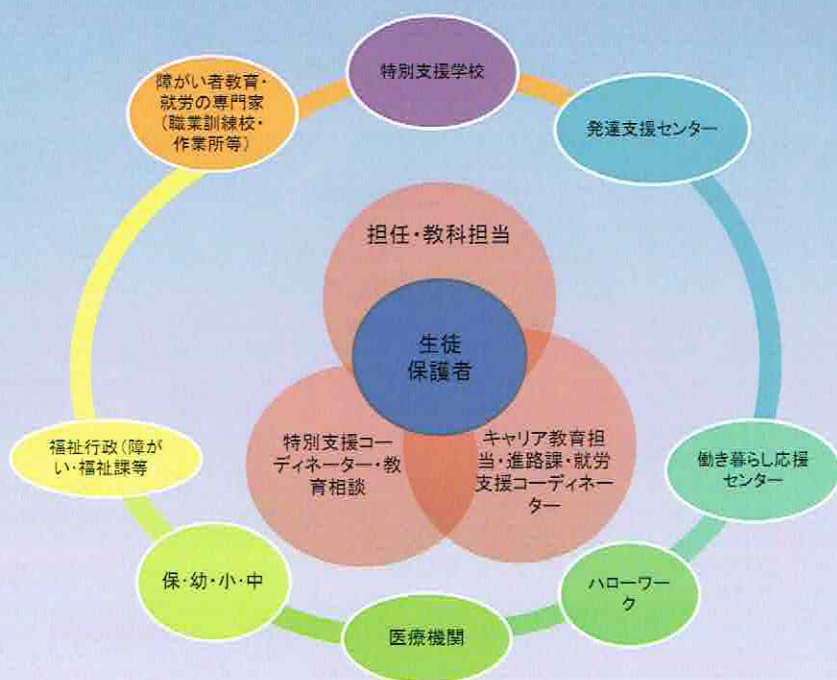


本校での教育の基本

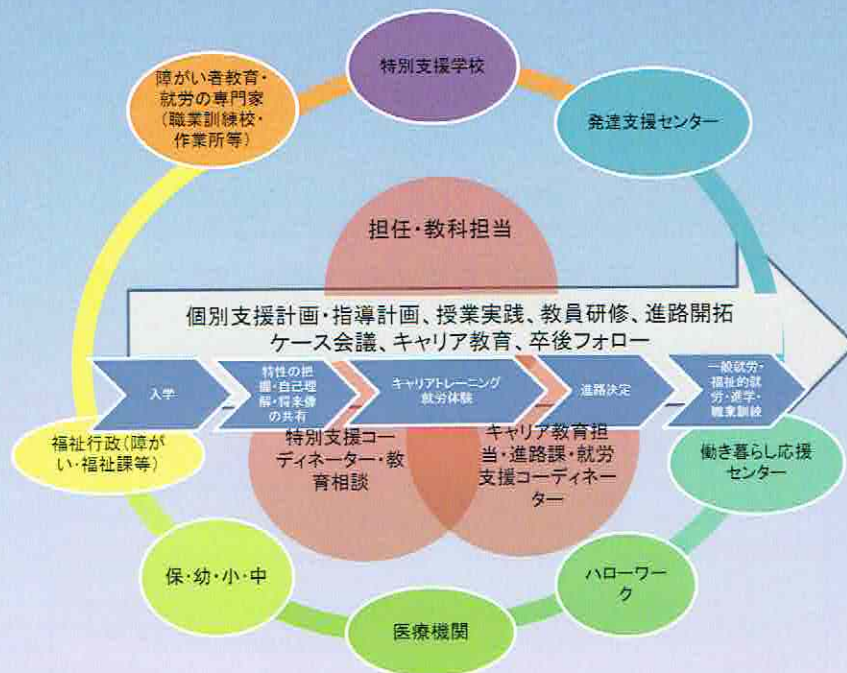
自己実現(社会的自立)・インクルーシブ社会の実現



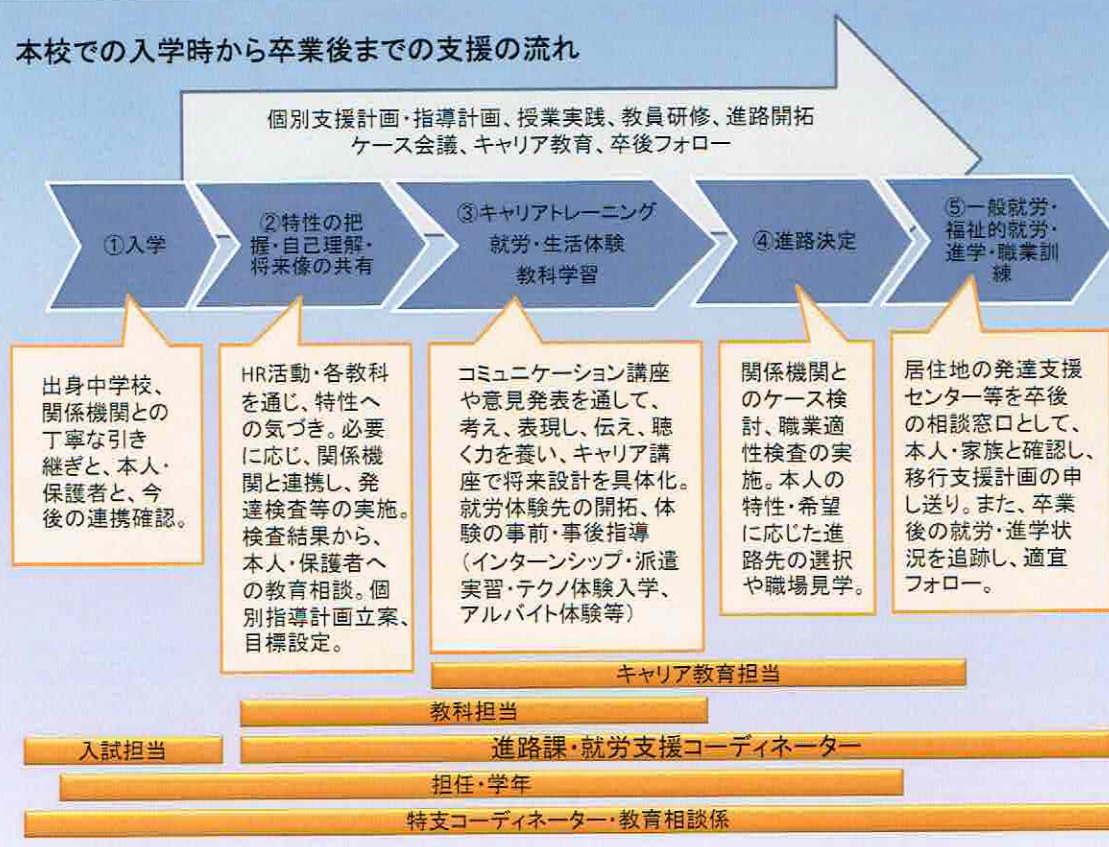
☆本校での就労支援等の枠組み



☆本校での就労支援等の取組概念図



本校での入学時から卒業後までの支援の流れ



平成27年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の指定を受けて

滋賀県立湖南農業高等学校長 寺井 久信

高校進学者全体のなかで、発達障害により特別な教育的支援を受ける必要があると判断される生徒数は、近年増加傾向にあり、平成26年の滋賀県の資料によると、高校段階で全高校生の2.91%が特別な教育的支援の対象であると判断されています。しかし、多くの高校関係者には、「高校は義務教育ではない」という意識があり、学習の遅れは「自己責任」であるという考えが根強くあることなどから、高校現場における特別な教育的支援は遅れ気味で、意識の高い特定の教員を頼っているという実情があります。そのような中で、2016年4月から障害者差別解消法が施行されます。国公立学校において障害者への「合理的配慮」の提供が法的に義務付けられ、発達障害をはじめ、障害のある生徒への支援について、高校現場において適切な対応が必要となります。

本校では昨年度に引き続き、本年度も文部科学省の「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の研究指定を受け、キャリア教育の一層の充実とインクルーシブ教育を意識した調査・研究・実践を行ってきました。研究指定を受けるにあたって「就労支援ネットワーク会議」を設立し、福祉機関や特別支援学校の関係者など外部の専門家の方々からご指導とご助言をいただく機会を得ることは、研究を推進する上で大変貴重なものとなりました。そのなかで、外部の専門家の方々からは、農業高校の特性や人権教育における実践、個別の進路実現プロジェクトにおける実践、インターンシップなど、本校教育活動の強みを多くご指摘いただきました。一方で、学校がいろいろと実践していることは評価できるが、教員の「プロデュース力」や、生徒をその気にさせる「しかけづくり」に弱さがあるとのこと指摘は、ともすれば研究のための研究になりがちな状況への警鐘となりました。

また、教職員の意識面においても、インクルーシブ教育にどのような期待を持ち、その実現に向けてどこまで共通理解できているのかが明確でないことなど、インクルーシブ教育システムの構築というゴールに向かって、さらなる議論の必要性を確認しました。

発達障害をはじめ様々な課題を持つ子どもたちが、社会で自立し充実した生活を送るために、高等学校で進めなければならない教育実践についてさらに研究を進め、支援や指導を充実させたいと考えています。

本年度の研究、実践に関わる資料等を冊子としてまとめました。本事業に取り組むなかで外部顧問の皆様から多くの貴重なご意見をいただいたことで論議が大いに深まりました。大変お忙しい中、4回の会議にご出席いただいた9名の外部顧問の皆様に、心より感謝申し上げます。

最後に、本校の研究指定の取り組みに多くのご指導をくださいました文部科学省並びに滋賀県教育委員会の皆様に厚くお礼申しあげ、巻頭の言葉といたします。

目 次

研究概要ポンチ絵

巻頭言

I 研究報告	1
II 文部科学省への提言	7
資 料 1	8
資 料 2	12
資 料 3	14
資 料 4	15
資 料 5	16
資 料 6	17
資 料 7	19
資 料 8	20
資 料 9	23
資 料 10	26
資 料 11	29
資 料 12	32
<付録>	
全人教レポート	34

I 研究報告

1 研究の内容

(1) 現状の分析と研究の目的

- ・本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況や中学校、関係機関からの情報を踏まえ分析した結果、在籍者464名中、1年19名、2年24名、3年28名計71名（15.3%）の生徒を就労等支援の対象としてピックアップした上で、個別の指導計画を作成している。
- ・本研究では、これらの生徒の就労支援について、入学前から卒業後までを見据えた個別の支援計画をたて、特に必要と考えた場合、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携し個別のケース会議を行い具体的な就労支援を行った。（3年9名（就職7名、進学1名、未定1名：3月1日現在）

(2) 取組内容

①モデル地域における取組

卒業後の進路にあわせて、生徒の支援移行を行ったが、その移行先として、居住地や就労先の市町村福祉行政、また、進学先へと従来の枠組みを越えた形で行った。これにより今後の支援を、本地域におけるいわゆる行政の福祉圏域や支援学校のセンター的機能の発揮のための巡回地域など、既存の枠組みを越え連携することができるようになった。

②モデル校における取組

上述の取組を行うため、既存の枠組みにこだわることなく、連携先を開拓し、個別の支援へと繋ぐことができた。このことにより、本校を中心とした、新たな支援ネットワークを構築することができた。

特別支援学校や労働・福祉の関係機関からなる就職支援ネットワーク会議を設置し、関係機関の有機的な連携のもと、教育相談委員会を中心とした情報共有、教育相談体制の整備や充実を図った。

就職支援コーディネーターを配置し、特別支援教育コーディネーターとの緊密な情報共有を行いながら、労働・福祉等の関係機関と連携し、特別な教育的ニーズを必要とする生徒の就労先・就業体験先の開拓、就業体験時の巡回指導、生徒の就職指導、卒業後のアフターフォロー等を行った。

特別支援学校のセンター的機能を利用し、障害のある生徒が生活しやすい学校づくりに向けた研究を行うとともに、障害のある生徒とない生徒が共に学ぶ、理解しやすい授業の工夫・改善を行った。

農場実習やインターンシップによる体験をとおして、生徒のコミュニケーション能力の向上を図った。

生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、保護者の啓発も含め、映画鑑賞にとりくんだ。

また、働くことについての意識を高めることを目的に、保護者・生徒を対象にした就労啓発講演会を実施した。

障害のある生徒の特性と、能力・適性の把握を行い、将来の就労に向けた支援のあり方について、保護者の理解を得た。

生徒の卒業後の自立に向け、個別の教育支援計画を作成するとともに、関係機関への相談の仕方等を伝えた。障害者手帳の取得による障害者雇用枠を利用した就労など、法制度面の対応について理解を深めた。

(3) 研究の方法等

①就労支援ネットワーク会議等の設置

ア 構成委員

No.	所 属 ・ 職 名	備 考
1	大津市立やまびこ支援センター社会福祉士	
2	湖南地域働き・暮らしセンター “りらく”	
3	湖南市社会福祉課発達支援室 室長	
2	滋賀県立草津養護学校 教諭	
3	滋賀県立高等技術専門校	
4	卒業生保護者	
5	びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科准教授	
4	草津市子ども家庭部発達支援センター	
5	滋賀県立八日市南高等学校教頭	

イ 会議開催回数・検討内容

NO.	開催日時	会議等名称	検討内容
1	2015. 7. 17	就労支援ネットワーク会議	今年度の研究計画について
2	2015. 9. 30	就労支援ネットワーク会議	研究の進捗状況報告・助言
3	2015. 12. 4	就労支援ネットワーク会議	研究の進捗状況報告・助言
4	2016. 2. 19	就労支援ネットワーク会議	研究の評価

ウ ネットワークの構築による効果と成果

効果・成果等	今後必要な事項
幅広い関連機関との連携	各機関、代表との横の連携ができ、研究全体の計画を立てるとともに、随時研究の進捗状況を確認することができた。また、個別の事案に関しては、関係者が連絡を取り合い、スムーズにケース会議を開催することができた。
連携による卒業生の状況把握	個別の案件に関して各機関でお世話になった卒業生の様子について全て把握できている。
インクルーシブ教育に向けた学び	各機関、代表からの助言により、インクルーシブ教育に向けた理解を深めることができた。 今後は「合理的配慮の提供」について理解を一層深めていきたい。

②就職支援コーディネーター等の配置

ア 人数及び経歴・所有する資格等

就職支援コーディネーター数（1人）

コーディネーター	経歴・所有する資格等	勤務形態
A	（経歴） ○市役所子ども家庭課 家庭相談員 ○就労継続支援A型事業所サービス管理者 ○市障害者福祉センター相談員 ○専門学校障害者職業訓練アドバイザー ○県障害者委託訓練職業訓練コーディネーター（資格） 社会福祉主事任用資格、家族相談士 ホームヘルパー2級	月16日 （1日7時間45分勤務）

イ 本事業における活動内容

コーディネーター	活動内容
A	就労・体験先の開拓、生徒への就職指導、就労支援、関係機関との連携補助、企業からの情報収集、教員等の情報提供

ウ 関係機関や教職員との連携に係る工夫点と成果

工夫点	成 果
企業訪問において、福祉就労や体験就労についての情報収集とデータベース化を行った。	生徒個別の就労に向けた取り組みにおいて、進路先を検討するための有効な資料となった。
ケース会議での情報提供	個別の案件に関するケース会議において、情報収集により得られた情報を提供することで、進路決定に向けた方向性を検討することができた。
生徒への進路指導	学年や進路指導部と連携した上で、コーディネーターが生徒個々に情報提供し、外部の関係機関と連携を取ることで、生徒の特性を考慮した進路先を検討することができた。

2 研究仮説の検証

研究仮説	検証の結果
特別な教育的ニーズの必要な生徒の実態把握	約15%の生徒の個別の指導計画の作成
中学校からの確実な支援移行	高校で必要とする教育情報について独自の様式を作成し、中学校からの支援移行を受ける。 資料 1
個別の指導計画から就労に至るまでの取り組みについての共通理解	イメージ図を作成し、校内教職員が統一した方針で指導できるよう工夫した。 資料 2
進路保障についての共通理解	進路保障とキャリア教育についてのイメージ図を作成した。 資料 3
実習をともなったキャリア教育	3年生全員でインターンシップとして、3年生希望者に派遣実習として、企業実習を行った。インターンシップで82.3%、派遣実習で100%が「自分のためになった」と満足度を回答している。 資料 4

3 研究の成果

・生徒の現状分析

本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況や中学校、関係機関からの情報を踏まえ分析した。結果、就労等支援の対象としてピックアップし、71名の個別の指導計画を作成した。（在籍者465名中、1年19名、2年24名、3年28名（15.3%））

- ・就職支援コーディネーターを6月より配置し、個別の案件の就労支援に取り組むとともに、学校近隣の160社を訪問し、企業における求人状況、福祉就労、体験就労について情報収集を行いデータベースを作成した。

資料5

- ・就労支援ネットワーク会議を設立。外部委員を行政、福祉機関、職業専門校、特別支援学校教育関係者、保護者から委嘱し、合計4回の会議を実施した。この中で本研究の取り組みについて検証し、活動に発展させ、評価も行った。

- ・個別の案件に関して、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携しケース会議を行い、具体的な就労支援を行った。これらの取り組みにより、特別な教育的ニーズを必要とする就職希望生徒全員が就職先を決定することができた。（3年9名（就職7名、進学1名、未定1名（進学結果待ち：3月1日現在））。

資料6

- ・特別支援学校の教員により、発達検査やケース会議を実施した。

資料7

- ・日々の教育活動の中で、全教員が授業改善に取り組み、課題のもと実践をおこなった。

- ・大阪府立柴島高等学校から講師を招き、生徒の集団づくりについて職員研修会を開催した。

- ・進路保障を念頭に置いた「生徒が身につけるべき力」について、キャリア教育の視点から高校3年間の教育活動の体系化について検討を行った。

資料8

- ・昨年度に引き続き、日々の教育活動の中で、全員が授業改善に取り組み、課題のもと実践をおこなった。昨年度から今年度に継続して在籍している教員のうち、昨年度から引き続き実践を行っている教員は92%と高い率であった。また、65%の教員が良くなったと評価している。

資料9

- ・生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、保護者の啓発も含め、映画鑑賞に取り組んだ。生徒は、鑑賞後アンケートにおいて、88%の肯定的評価があった。

資料10

- ・生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、講演会に取り組んだ。生徒は、事後アンケートにおいて、97%の肯定的評価があった。

資料11

- ・2年生生徒全員にQ-Uアンケートを9月と12月に実施し、生徒が居心地良くやる気の出る学校づくりについての研究を行った。

4 評価計画

評価計画	結 果 等
1 発達検査と発達相談の実施	7名の生徒について、養護学校、市の発達支援センターの専門家により実施した。
2 個別の支援計画、指導計画	71名の生徒の個別の支援教育、指導計画を作成。 9名の生徒については、支援の枠組みをつくりケース会議を行った。
3 自尊感情の変化（アンケート調査より）	2年生全クラスについて、9月に自尊感情に関するアンケートを実施した。その後インターンシップや文化祭、人権集中LHR等の学校行事での取り組みが、どのように生徒個々の自尊感情に影響を与えているか検証することを目的に、12月に再度アンケートを実施した。結果、全体として「学校生活不満足群」「非承認群」、「要支援群」が減少した。また、「学校生活意欲総合点」においても75点以上の分布が伸びた。 実習を通じて仲間ができ、生徒に笑顔が見られるようになっており、インターンシップで自信もついてきた。農業高校ならではのメリットを活かした取り組みができていると感じた。資料12
4 就労先企業と関係機関からの意見聴取	就職内定をいただいた企業と関係機関から、今後の支援について意見を聞き連携について確認した。

5 研究の課題と今後の方策

- ・本年度の特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約15%であった。本県の中学校での特別支援学級での在籍率の約2%と比較し、かなり多い。滋賀県の小中学校における特別な支援を要する生徒の在籍率は増加の方向で推移しており、本校でもこの傾向は、今後も続くものと考えられる。本校でのキャリア教育・就労支援等の充実が喫緊の課題であると考えている。
- ・本事業の指定を受け、校内体制での分掌への位置づけ、関係機関との連携、コーディネーターの配置など、生徒の就労に対する支援体制が整った。また、教員の課題に対する問題意識も高まり、多くの実践ができた。
- ・今後の社会の有り様として、インクルーシブ社会の実現が、高等学校ではまだ認知されていない。「障害者の権利に関する条約」の批准については、学校現場でさらに理解する必要がある。

Ⅱ 文部科学省への提言

本事業に2年間取り組んでみて、多大な教育的成果をみた。この事業の継続と、他の各高等学校での就職支援コーディネーターの配置や就労支援ネットワーク会議の設立を望む。

また、高校入学時から特別な教育的ニーズを有する生徒を把握するために、中学校からの円滑な支援移行が欠かせない。このことは保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校への支援移行についても同様である。それぞれの学校段階において合理的な配慮を切れ目なく、一貫して提供できる仕組みづくりが必要である。このためにも支援移行のための全国共通の様式を定めていく必要があると考える。

さらに、次世代のあるべき社会の姿を考える上で、「障害者の権利に関する条約」の精神を大いに広めていく必要があると考える。

滋賀県立湖南農業高等学校への引き継ぎシート



作成日 平成 年 月 日

作成に関わった者	所属 ()	名前 ()
	所属 ()	名前 ()

●プロフィール

ふりがな 生徒名		性別 男・女	生年月日	平成 年 月 日
保護者氏名		住 所		
出身中学校		連絡先		
支援の根拠となる情報（手帳・診断名・発達検査等）				

●特性に関わっての理解・認識

本 人	
保護者	

●目標、将来の生活についての思い・希望＜本人・保護者＞

高校入学後の 目標（短期）	
高校卒業後の 目標（長期）	
短期目標実現に 必要と思われる 指導支援目標	

●本人の状況

- ・ 本人が落ち着ける環境・・・
- ・ 好きなこと（得意なこと）・・・
- ・ 嫌いなこと（苦手なこと）・・・

●高校入学前の支援経過

--

●高校入学までの支援ネットワーク

	支援機関（担当者）	所在地・連絡先
医 療		
相談機関： 発達支援 センター		
教育機関： 言葉の教室・ 通級教室		
そ の 他		

●中学での支援

	支援が必要な場面	具体的支援の方法
身体・健康面		
学 習 面		
生 活 面		
行動・社会性		
家 族 状 況		

私は以上の内容を了解し、進路先に引き継ぐことを了解します。

平成 年 月 日

保護者名（自署）

以上の内容を了解し、進路先に引き継ぎます。

平成 年 月 日

中学校名

住所

TEL

中学校長

印

滋賀県立湖南農業高等学校への引き継ぎシート



作成日 平成 年 月 日

作成に関わった者	教育相談担当、担任特別支援担当等	名前 ()
所属 ()		名前 ()
所属 ()		名前 ()

●プロフィール

生徒名	性別 男・女	生年月日	平成 年 月 日
保護者氏名	住 所		
出身中学校	連絡先		
支援の根拠となる情報(手帳・診断名・発達検査等)	療育手帳や診断、発達検査の取得・実施年月日や、病院・検査機関などがわかれば、記入してください。		

●特性に関わっての理解・認識

本人	本人・保護者は特性についてどのように理解・認識していますか。
保護者	

●目標、将来の生活についての思い・希望<本人・保護者>

高校入学後の目標(短期)	本人・保護者の思いを踏まえ、高校生活でどのような力をつけ、卒業後の進路目標を持っているか記入してください。
高校卒業後の目標(長期)	
短期目標実現に必要なと思われる指導支援目標	担任、担当の先生の思いや所見と、高校での支援の方向性について、アドバイスをお願いします。

●本人の状況

- ・ 本人が落ち着ける環境・・・
- ・ 好きなこと(得意なこと)・・・
- ・ 嫌いなこと(苦手なこと)・・・

●高校入学前の支援経過

支援のきっかけや現在までの経過を、ご記入ください。

●高校入学までの支援ネットワーク

	支援機関（担当者）	所在地・連絡先
医 療	高校入学までに生徒支援に関わってこられている機関をご記入ください。 機関名・担当者名をご記入ください。	
相談機関： 発達支援 センター		
教育機関： 言葉の教室・ 通級教室		
そ の 他		

●中学での支援

	支援が必要な場面	具体的支援の方法
身体・健康面	身体的な障がいや日常的な体調不良の訴え、受診状況など	
学 習 面	得意・不得意 聞く・話す・読む・書く・計算の力など	
生 活 面	基本的な生活習慣・整理整頓・物の管理・作業の様子など	
行動・社会性	友人関係・教員との関係（コミュニケーション方法、意思の疎通等）・集団行動場面など	
家 族 状 況	養育状況、障がいの理解など	

私は以上の内容を了解し、進路先に引き継ぐことを了解します。

平成 年 月 日

保護者名（自署）

了解がとれない場合は無記入でご提出ください。

以上の内容を了解し、進路先に引き継ぎます。

平成 年 月 日

中学校名

住所

TEL

中学校長

印

湖南農高・勝手に応援団イメージ

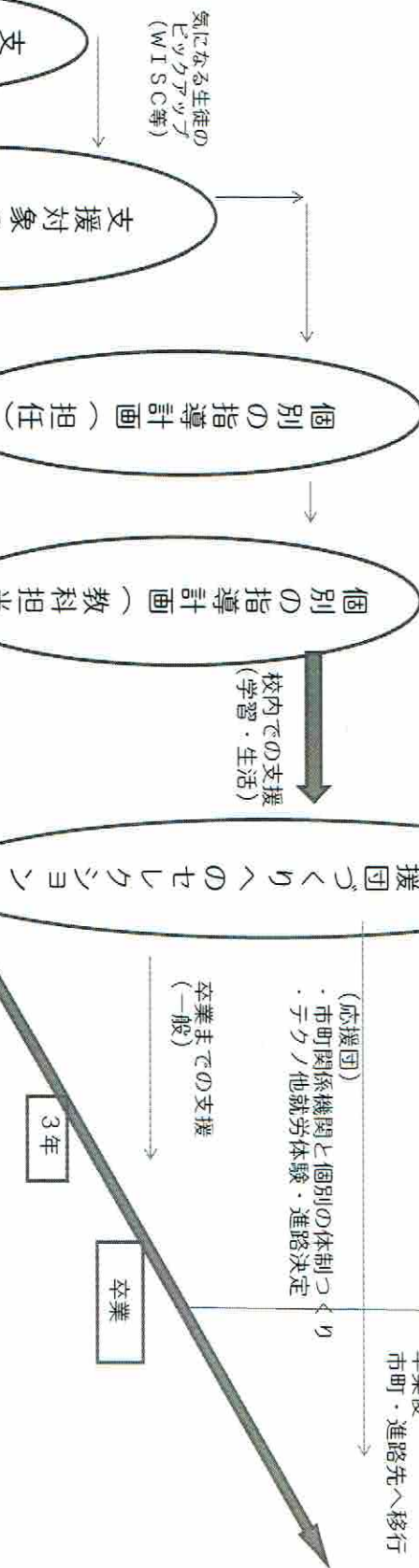
「将来のくらし」から考えて
高校でつけたい力

20年後

くらし

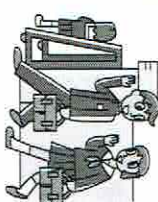
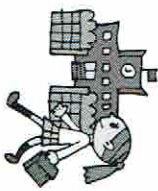
10年後
応援団はつづく...

卒業後
市町・進路先へ移行



本人・保護者
面談の上

2年



中学校・
市町の
申し込み

支援対象の確認（第1次）

支援対象の確認（第2次）

個別の指導計画（担任）

個別の指導計画（教科担当）

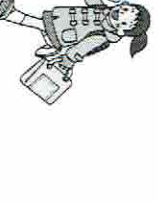
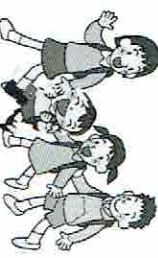
勝手に応援団づくりへのセクション

3年

卒業

1年

高校入学



高校における特別支援教育の取り組みの課題

1) 中学校卒業までの積み上げと、社会に送り出すことを想定したときのギャップ

本校では、「特別支援」的な社会保障体制の整っていない社会、「障害」について差別、偏見が未だに根強い現実社会に生徒を送り出すことを想定して、現実の社会で生きていく力をどう育てるかを考えている。高校自体が入試による選別制度に乗っており、「支援学級」も現時点では設置されていない。現在、良くも悪くも高校は、「共生」の環境にある。

現実社会に送り出すことを想定したときに、中学校までの積み上げ、申し送りの内容にはギャップを感じる。多様な集団の中で、様々な関係性の中で生徒の経験値を上げることが高校では重要だが、中学までの積み上げには「特別支援」を必要とする生徒「個人」の特性に特化した視点での支援が強い。個人の特性を理解した上で能力を伸ばすことは大変重要なことだが、その力を活かす場は現実には様々な人との「関係性の中」（＝社会）にある。小中の大半を支援学級で過ごした生徒を高校で受け入れると、当初、様々なトラブルに見舞われるが、これは将来のためには貴重な経験となるし、わずか3年間でトラブルに対する経験値は事実積み上がっていく。そう考えると、これまでの取り組みは、他者との関係性から生じるリスクを避け、結果的には生徒自身の経験値を伸ばしていないようにも見える。

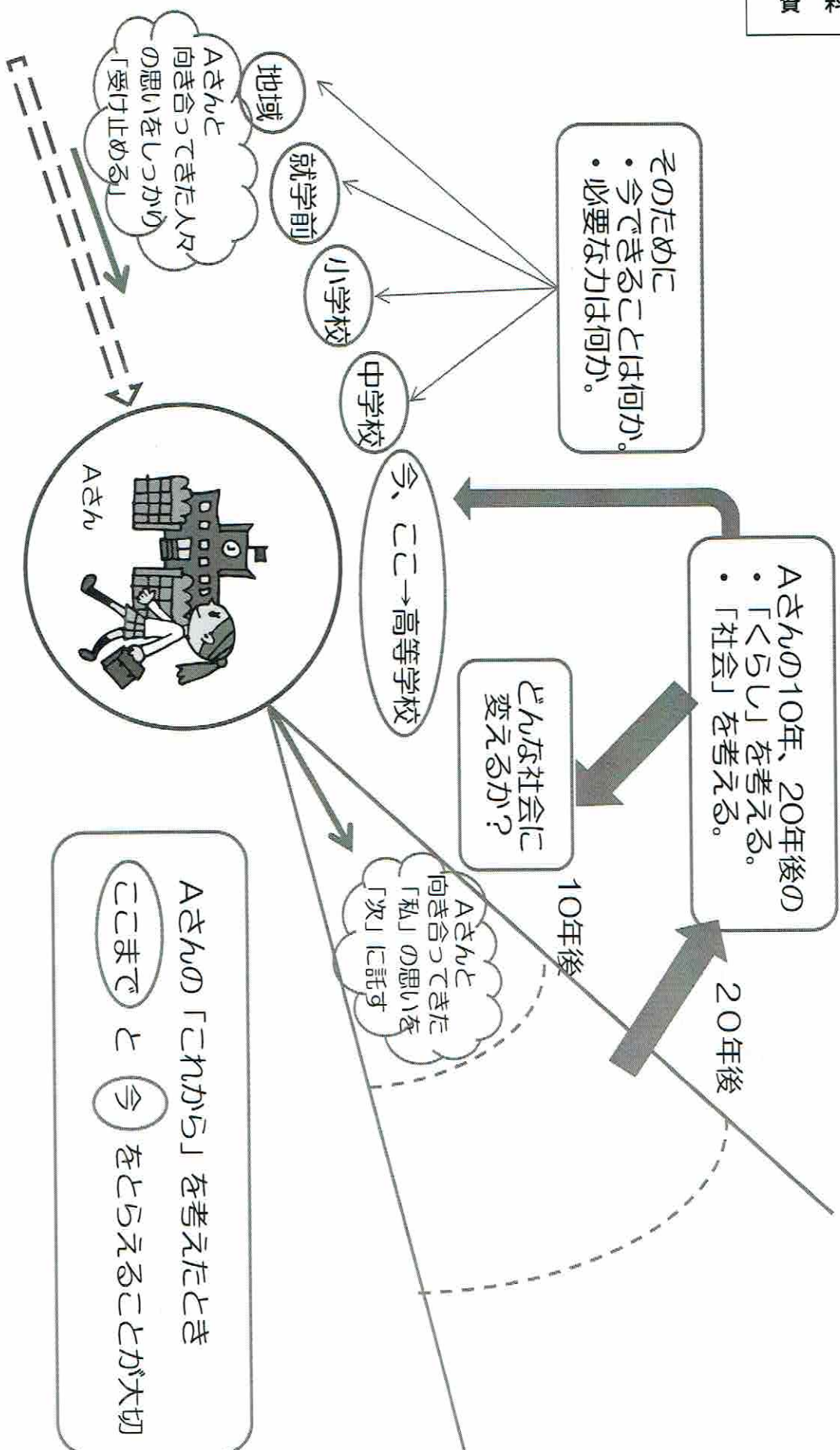
関わる時期と立場が違うだけで、長い人生を生きる一人の子どもにどう関わるかという点では共通しているのだから、このような視点のギャップについて、「進路保障」の観点から、もっと中学、市町と高校との間でスムーズな連携に向けた情報共有と意思疎通が必要であると考えている。

2) 進路保障を考えた連携体制づくりの課題

上記のギャップが生じる要因の一つとして、就学前から中学までは市町、高校になると県の管轄であり、市町と県の両者（行政）のコミュニケーションが不足していることがあげられる。

また情報を受け取る側の高校から見ると、中学校や市町の教育委員会、発達支援室、ことばの教室等々それぞれが別々に独立している印象を受ける。特に行政での「教育」と「福祉」との隔たりは大きいと感じる。事実、高校から卒業後を想定して連携体制を作ろうとしたとき、これらの機関を一つずつ訪問し、説明し、連携の要請を行っている。将来のことも考えれば障害福祉、医療、生活相談の各部署も含め、市民の暮らしに責任を持つべく、市町で情報の一元化を進めてほしい。

「進路保障」って何やる？



H27年度 インターンシップ生徒アンケート結果

全学科合計

	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)
事前学習は十分できた。	34.5	48.0	11.5	6.0
専門的な技術を学ぶことができた。	38.2	46.9	8.8	6.1
目上の方とうまく対応できるようになった。	37.8	48.0	9.5	4.7
実習日誌をうまくまとめることができた。	31.8	51.4	10.1	6.7
この体験を将来のために生かすことができそうだ。	29.7	49.3	14.9	6.1
成果発表会では実習内容をうまくまとめることができた	21.0	54.7	18.9	5.4
成果発表会ではうまく発表できた。	15.6	49.3	27.0	8.1
全体として科目「インターンシップ」は自分のためになった。	34.7	47.6	10.2	7.5
この実習を通して家で将来について話す機会が増えた。	15.6	35.1	28.4	20.9
この実習は社会に出てから役に立つと思う。	33.8	43.9	12.8	9.5

H27年度 派遣実習生徒アンケート結果

	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)
事前学習は十分できた。	20	60	20	0
専門的な技術を学ぶことができた。	80	20	0	0
目上の方とうまく対応できるようになった。	40	60	0	0
実習日誌をうまくまとめることができた。	0	20	40	20
この体験を将来のために生かすことができそうだ。	100	0	0	0
成果発表会では派遣実習の成果をまとめることができた	0	80	0	20
成果発表会ではうまく発表できた。	0	40	20	20
全体として科目「派遣実習」は自分のためになった。	100	0	0	0
この実習を通して家で将来について話す機会が増えた。	60	20	20	0
この実習は社会に出てから役に立つと思う。	80	20	0	0

A：ほぼ当てはまる

B：やや当てはまる

C：どちらかという当てはまらない

D：ほとんど当てはまらない

雇用前 実習受け入れ事業所

		事業所	所在地	事業内容
1	一般	* * * * *	京都市	菓子製造
2	一般	* * * * *	京都市	玉子焼き 製造
3	A型	* * * * *	京都市	商品袋つめ・入力作業
4	A型	* * * * *	京都市	データー入力・ホームページ作成
5	A型	* * * * *	京都市	クリーニング業務
6	A型	* * * * *	大津市	軽作業・施設外就労
7	A型	* * * * *	大津市	包装作業・検査業務
8	特例	* * * * *	大津市	環境保全業務
9	特例	* * * * *	東近江	清掃業務
10	一般	* * * * *	草津市	療育
11	福祉	* * * * *	大津市	リサイクルショップ
12	一般	* * * * *	滋賀県内	品だし・パック作業

体験実習 受け入れ事業所

		事業所	所在地	事業内容
1	B型	* * * * *	草津市	パン製造
2	B型	* * * * *	草津市	パン製造
3	B型	* * * * *	大津市	農業 野菜製造・梱包
4	B型	* * * * *	大津市	農業・事務補助
5	B型	* * * * *	大津市	そば作り・農業・木工
6	B型	* * * * *	栗東市	焼き菓子製造・箱作り・ハーネス検査
7	自立	* * * * *	大津市	自立訓練＋就労移行
8	自立	* * * * *	大津市	自立訓練＋就労移行
9	自立	* * * * *	大津市	生活訓練
10	B型	* * * * *	草津市	床マットクリーニング・施設外（給食センター）

平成28年 2月29日 現在

個別の支援プロジェクト（通称：勝手に応援団）

○校内組織：学級担任、教育相談係、教育相談委員会、就労支援事業委員会

○校外組織：市町発達支援室等、市町の障害福祉行政機関、医療機関、圏域の働き・暮らし応援センター、ハローワーク、障害者支援事業所等

○平成27年度の状況

平成27年度は、3年生9名についてプロジェクトによる進路支援を行なった。進学希望者は最終2名で就職希望者は7名、うち療育手帳所持者は2名であった。全てのケースで手帳を行使せずにいわゆるクローズでの進路選択となった。そのため、在学中に各機関が集まって検討会を実施する回数は少なく、進路内定後に各市町に支援移行するという形が大半となった。また、具体的な進路先への支援移行について昨年度より先方の感触をはかりながら、可能と判断できるところには移行を進めており、本年度もこの形で進めている。

○成果・課題

このプロジェクトの実施は今年で4年目となる。本校の特別支援の取り組み、進路保障体制の軸として校内での体制は定着しており、またこの4年間でほぼ近隣の市との連携体制も確立できた。

今年度初めて過去3年間の振り返り、追跡を行なったが、卒業後の各機関とのつながりも良好で、問題発生時や軌道修正にも迅速な対応が出来ている。卒業後に地域社会で孤立させないという初期の目的は達成できており、卒業後もプロジェクトがしっかり機能していることがわかった。

今後は就労面だけでなく、生活面での課題が発生することが予測されるが、居住地の行政機関とつながれていることはやはり心強い。

卒業に当たっての進路決定にこのプロジェクトを動かさない場合も、引き続き在学中に居住市町とのつながりを作っておくことは肝要である。

現役3年生、卒業後軌道修正を入れるケースに共通して、本人・保護者の、障害理解と社会認識ということが大きな課題である。自分の現実に向かって向き合うことを在学中に進めてきてはいるが、このことが進路決定にも進路先の軌道修正にも大きく影響する。特に障害理解という点については学校側にさらなる真摯な取り組みが必要であると考える。

個別の進路実現プロジェクト2015対象生徒一覧

取扱注意



2015年度 3年

	番号	名前	居住地	進路希望	療育手帳	ケース会議の枠組み	保護者	進路先
1	*	** ** *	***	就職 就職準備↓	○	市支援センター	○	製造企業
2	*	** ** *	***	就職		市発達支援センター		製造企業
3	*	** ** *	***	就職		市発達支援センター テクノ	○	製造企業
4	*	** ** *	***	進学	○	市支援センター テクノ	○	※短大受験 出願中
5	*	** ** *	***	進学↓就職		(市発達支援センター)	○	製造企業
6	*	** ** *	***	進学		市発達支援センター	○	関係専門 学校 自動車
7	*	** ** *	***	就職		市発達支援センター	○	農事組合 法人
8	*	** ** *	***	就職		市発達支援センター	○	食品関連 企業
9	*	** ** *	***	就職		市社会障害福祉課	○	製造企業

養護学校等との連携

	生徒	検査実施日	結果返し	検査者
1	3年 K	5月20日	6月22日	草津養護 **先生
2	3年 M	7月7日	8月11日	草津発達セ **先生
3	3年 F	7月29日	10月19日	草津養護 **先生
4	1年 M	10月20日	11月30日	草津養護 **先生
5	3年 S	11月11日	11月20日	草津養護 **先生
6	1年 N	3月7日	3月16日	草津養護 **先生
7	1年 S	8月26日	—	守山発達セ **先生

「キャリア教育就労支援等の充実事業」

進路保障のために つけるべき「力」にかかわるアンケート

就労支援ネットワーク会議校内委員会

<趣旨>

先日の佐々木徹先生（柴島高校）をお招きしての研修会の内容をふまえて、本校のキャリア教育…進路保障の骨子を整理する。そのために、今、私たちが取り組んでいることを検証し、具体的に「つけるべき力」を意識した上で、その力をより効果的に獲得するための道すじを明らかにするために実施します。

キー・コンピテンシー（Key Competencies）とは、OECDが1999～2002年にかけて行った「能力の定義と選択」（DeSeCo）プロジェクトにより生まれた新たな能力概念。

言語を運用する能力、他人と良い関係を作る能力、争いを解決する能力、人生計画を設計し実行する能力などが組み合わされた、個人の人生にわたる根源的な学習力。

□ キー・コンピテンシーⅠ＝相互的に道具（知識・情報）を活用する力

- A. 教科書“を”教える（学ぶ）のではなく、教科書“で”（を使って）教える（学ぶ）
- B. 論理的に思考し、対話を通して、発想・開発する力。PISA学力。
- C. 情報編集・活用力、「納得解」>情報処理力、「正解」

□ キー・コンピテンシーⅡ＝多様性のある集団（社会・枠組み）で行動する力

- D. 社会がどうやって成り立っているのか（回っているのか）についての全体性を常に視野に入れ（市民性・公共心）、感情を制御して他者とつきあう。
- E. 「どんな社会がいい社会だと思う？」を問い続ける。必要なら変える。
- F. 「違っていても信頼する」（人権・倫理）>「同じだから（一緒だから）安心する」（人権・倫理）（道徳）

□ キー・コンピテンシーⅢ＝自分をコントロールし、自律的に活動する力

- G. 生活管理力（睡眠・食育）。時間・空間をマネジメントする力。
- H. 自分の中にある価値観を分析しそれを序列づける力（優先順位）。
- I. 「自己理解・自己決定に基づく人生設計」>「先生の言うことを素直にきく」（理性）（狭義の“まじめ”）



<問1> 先生方が特に頑張っておられる仕事を次の中から5つ選んでください。

- | | | | | |
|-----------|----------|---------|----------------------|---------------|
| ①授業（教科指導） | ②生活指導 | ③部活 | ④清掃活動 | ⑤生徒会、農ク、委員会活動 |
| ⑥LHR | ⑦学級経営 | ⑧体育祭 | ⑨湖農祭 | ⑩球技大会 |
| ⑪遅刻指導 | ⑫服装指導 | ⑬生徒指導 | ⑭進路指導 | ⑮相談 |
| ⑯補習 | ⑰人権学習 | ⑱資格取得 | ⑲校外地域等連携活動（販売、交流活動等） | ⑳読書指導 |
| ㉑保健指導 | ㉒遠足・修学旅行 | ㉓その他（ ） | | |

<問2> 問1で選ばれた仕事は左のキー・コンピテンシー（Ⅰ～Ⅲ）のどれにあてはまりますか。

<問3> 問1で選ばれた仕事の成果・課題をご記入ください。

*すべて回答欄にご記入・ご提出ください。

問1	問2	問3
例) ①授業	I	「正解」を導く指導まではある程度してきたが、「納得解」というところまで深められていない。

「キャリア教育就労支援等の充実事業」
進路保障のためにつけるべき「力」にかかわるアンケート

キー・コンピテンシーⅠ 相互的に道具 (知識・情報)を活用する力		キー・コンピテンシーⅡ 多様性のある集団 (社会・枠組み)で行動する力		キー・コンピテンシーⅢ 自分をコントロールし、 自律的に活動する力	
①授業(教科指導)	46%	⑨湖農祭	13%	②生活指導	13%
⑬実習指導	19%	③部活	12%	③部活	13%
⑭進路指導	7%	②生活指導	10%	⑮相談	12%
⑳資格取得	5%	⑦学級経営	8%	⑫服装指導	8%
⑤生徒会、農ク、委員会活動	4%	⑰校内外地域等連携活動 (販売、交流活動等)	8%	⑭進路指導	8%
⑯補習	4%			①授業(教科指導)	7%
⑤読書指導	4%	⑮相談	7%	④清掃活動	7%
②生活指導	2%	④清掃活動	6%	⑬生徒指導	7%
③部活	2%	⑤生徒会、農ク、委員会活動	6%	⑳資格取得	5%
⑧体育祭	2%	⑧体育祭	6%	⑨湖農祭	3%
⑨湖農祭	2%	⑰人権学習	6%	⑪遅刻指導	3%
⑮相談	2%	①授業(教科指導)	5%	⑤生徒会、農ク、委員会活動	2%
⑰人権学習	2%	⑥LHR	2%	⑥LHR	2%
⑳その他	2%	⑫服装指導	2%	⑧体育祭	2%
その他→保護者との連携 その他→学校説明会		⑬生徒指導	2%	⑯補習	2%
		⑭進路指導	2%	⑰人権学習	2%
		⑬実習指導	1%	⑬実習指導	2%
		⑮読書指導	1%	⑮保健指導	2%
		⑳その他	1%	⑮読書指導	2%

その他→保護者との連携

平成26年度（2014年度）取り組みの振り返り

名前	昨年2014年、2学期以降に 取り組まれたことを継続しているか はい（1）・いいえ（2） 新たなこともやり始めている（3）	この1年間 継続して やった効果 はあるか	「はい」の場合 どのような効果があったか	「いいえ」の場合 なぜ継続しなかったか	「新たなことをやり始め ている」場合 どのようなことをされて いますか
	1 はい、継続中	1 はい			
	2 いいえ、していない	2 いいえ			
	3 新たなこともやり始めている	3 わからない			
A	1 はい、継続中	1 はい	生徒を理解しようとする気持ちが強くなった。		
B	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
C	1 はい、継続中	1 はい	授業展開がよりスムーズになった		各時間の「めあて」の明確化
D	はい、継続中	はい	生徒を理解しようという気持ちが強くなった。		
E	1 はい、継続中	1 はい	生徒とのコミュニケーションがよりスムーズになった		
F	はい、継続中	1 はい	授業がやりやすくなった		
G	1 はい、継続中	3 わからない			
H	3 新たなこともやり始めている	#N/A			振り返りシート
I	1 はい、継続中	1 はい	生徒が話を聞く際に静かになった。		
J	#N/A	#N/A			
K	1 はい、継続中	1 はい	生徒に伝わりやすくなった。		
L	1 はい、継続中	1 はい	一日の流れを把握させやすい		
M	1 はい、継続中	1 はい	子どもへ話がしやすい		
N	1 はい、継続中	1 はい	視覚的に理解させやすい		
O	#N/A	#N/A			
P	#N/A	#N/A			
Q	はい、継続中	3 わからない			
R	1 はい、継続中	1 はい	授業の流れを伝えやすい		
S	3 新たなこともやり始めている	1 はい			
T	1 はい、継続中	3 わからない			
U	1 はい、継続中	3 わからない			
V	1 はい、継続中	3 わからない			試行錯誤中
W	1 はい、継続中	1 はい	良くなった。		検討中
X	1 はい、継続中	3 わからない			
Y	2 いいえ、していない	#N/A			
Z	1 はい、継続中	3 わからない			
AA	1 はい、継続中	3 わからない			
AB	2 いいえ、していない	#N/A			
AC	1 はい、継続中	3 わからない			
AD	#N/A	#N/A			
AE	いいえ、していない	3 わからない		今年が初めてだったので、授業改善及び本のことを知らなかった。	
AF	1 はい、継続中	1 はい	生徒を理解しようという気持ちが強くなった。		検討中
AG	1 はい、継続中	1 はい	配布プリントなどの整理整頓がしやすくなった。		
AH	#N/A	#N/A			
AI	1 はい、継続中	3 わからない	大きな変化を感じられない		
AJ	1 はい、継続中	1 はい	生徒の反応がよくなっている		
AK	#N/A	#N/A			
AL	3 新たなこともやり始めている	1 はい	生徒とのコミュニケーションがよりスムーズになった		相談・保健指導の方法の工夫
AM	1 はい、継続中	1 はい	良くなった。		検討中
AO	1 はい、継続中	1 はい	良くなった。		検討中
AP	2 いいえ、していない	#N/A			
AQ	1 はい、継続中	1 はい	良くなってきた		
AR	1 はい、継続中	1 はい	良くなってきた		
AS	#N/A	#N/A			
AT	1 はい、継続中	1 はい	良くなってきた		検討中
AU	1 はい、継続中	1 はい	良くなってきた		
AV	1 はい、継続中	1 はい	良くなってきた		検討中
	#N/A	#N/A			

平成27年度（2015年度）の取り組み

名前	参考にした本	左記以外の場合は本のタイトルや参考先等を具体的に書いてください	参考にしたページと内容	何をやる予定か(簡潔に記入してください)	実践前の状況(簡潔に記入してください)
1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術				
2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術				
3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編				
4	通常学級での特別支援教育のスタンダード				
5	キレやすい子へのソーシャルスキル教育-教室でできるワーク集と実践例				
6	「安心」「刺激」でつくる学級経営マニュアルすべての子どもを支える教師の1日				
7	授業のユニバーサルデザイン入門				
8					
9					
10	その他				
A	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		はめることから子どもに授ける	はめることから子どもや教員に授ける	説教になりがちであった。
B	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		40「話し言葉の3秒ルール」	3秒ルールを意識し、言葉を短く端的に説明する	話す内容が伝わりにくかった。
C	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		第3章、第4章	学ぶ動機付けに勝負をかける	生徒の理解に個人差があった
D	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		40「話し言葉の3秒ルール」	3秒ルールを意識し、言葉を短く端的に説明する	話す内容が伝わりにくかった。
E	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		62, 63, 66, 67	生徒の話をじっくり聞き、教師の価値観を押しつけない	教師の考えを押しつけがちであった
F	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		16~79	応答関係、動きを入れる、明るく元気に話す	一方的に話すことがあった
G	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		6~28, 86, 96	具体的かつ文書化して話す	1度の伝達では十分でない
H	10 その他	SSTワークシート	p.54	授け返り	自分の状況がわからない
I	3 教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		P48~51	感情がコントロールできない生徒へのルール作り	行為の結果だけをみて、注意していた。
J	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		p22, 25, 118	褒める	集中して話が聞けない
K	教師のすごい会話術		96	否定的な発言を減らし上手くほめる	生徒につたわりにくい
L	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術			学校行事や教科指導で、生徒と深くふれあう	相互のコミュニケーションがとりつらいときがあった
M	10 その他	講習会や研修会に参加して研鑽する		話を聞くだけでなく、見えるように工夫する	話を理解するのに時間がかかる
N	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		52・54・98・128	答えをすぐに教えない	答えやヒントをすぐに与えてしまう
O	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		第3章	二つの褒め言葉と一つのアドバイスの意識	褒める言葉とタイミングを意識できていなかった
P	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術			指示や説明をするときにいつもと違う間や言葉を出す	1回の説明では理解できない。
Q	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術			教科指導、普段のコミュニケーションにおいて実践する	話を理解するのに時間がかかる
R	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術	授業のユニバーサルデザイン入門	P40 P57~P67	視覚的に示し、考える時間を増やす	視覚的に伝えるだけで満足している
S	7 授業のユニバーサルデザイン入門		p.37~38	「わからない」と言える授業づくり	考慮範囲を進めるために、生徒の理解度を確認せず進めることがあった。
T	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		22~31・38~47・104~105	常に全体を意識して話す	どうしても気になる子に意識を集中してしまふ
U	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		100	質問後に教師の思いを伝える	授業の先を急ぎ生徒の答えへのフォローが短かった。
V	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		66・114・154	しっかり聞かせる	集中できていない
W	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		全般	教科指導で	今日の授業での目的を考えていない。
X	4 通常学級での特別支援教育のスタンダード		第4・5章	安心して落ちついて作業に取り組む	作業の段取りが予想できない
Y	#N/A				
Z	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		第1章	双方向のコミュニケーションを行う。	指名して「わかりません」で会話が終わる
AA	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		全般	生徒・保護者とのコミュニケーションに生かす	生徒とのコミュニケーションに課題があった
AB	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		47~67	実物を見せて、観察できる場を作る	一方的に話すことがあり、内容が伝わりにくかった。
AC	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		p.60~61	会話を楽しむ	話を聞けない
AD	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		47~67	実習園場で実物を見せ、考えさせる。	一方的に話すことがあり、伝わりにくかった。
AE	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		22,23,26,27	マイナスな言葉を言わせない	授業の中でマイナスな発言が出る場合がある
AF	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		98,99	安心して、人との関係のできるクラス作り	頼み事をしたときに、快く動いてくれる生徒に感謝の気持ちを素直に伝えられるようになる。
AG	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		p47「常に全体を意識して話す」	学級経営や教科指導で	クラスのみとまりが薄い
AH	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		全般	生徒・保護者とのコミュニケーション、学級経営	クラスで人間関係に悩む生徒が多い
AI	10 その他	授業のユニバーサルデザイン入門	P57~67	実物に触れて体験する	実物に触れたことのないものが多く見受けられる
AJ	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		P24-25, 54-55, 86-87	教科指導、普段のコミュニケーションにおいて実践する	一方的な授業になりがちであった
AK	#N/A				
AL	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術	授業のユニバーサルデザイン入門	全般	生徒と共有できる会話や授業展開	一方的な会話や授業展開になりがちだった
AM	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		全般	教科指導で	今日の授業での目的を考えていない。
AO	3 教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		全般	実習やコミュニケーション講座	無関心な状況
AP	#N/A				興味関心が薄い
AQ	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		第3章	聞くことはカウンセリングだと自覚して接する。	画一的な生徒への接し方に陥っていた
AR	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術		全般	実習指導、部活動指導	授業展開が一方的になりがちだった
AS	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		全般	実習指導	実習の手順が伝わっていないことがある
AT	1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい! 会話術			実習指導	今からする実習内容が、伝わっていないことが多い。
AU	2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術			目標を上げて話す 応答関係を入れて話す	
AV	3 教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		全般	実習園場で実物を見せ、考えさせる。	無関心な状況

どこで活用するか ①	どこで活用するか ②	実践後どうなった のか	改善された点、変わらなかった理由など具体的に
1 朝の打合せ		1 よくなった	
2 教職員への連絡		2 少しよくなった	
3 朝のSHR		3 変化なし	
4 教科指導で		4 悪化した	
5 教材			
6 LHRや特活			
7 生徒への連絡			
8 面談			
9 保護者への連絡			
10 保護者対応			
11			
12			
13			
14			
15 その他具体的に			
15 その他具体的に	2 教職員への連絡	2 少しよくなった	会話に対する反応がよくなった。
15 朝の職員打ち合わせ	2 教職員への連絡	2 少しよくなった	リズムとテンポという点で課題が残る。
4 教科指導で	6 LHRや特活	1 よくなった	キャッチコピーに工夫を加えた
15 朝のSHR	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	生徒の状態を見て話そう心がけた。
8 面談	4 教科指導で	2 少しよくなった	教師に余裕がないときは、生徒の話を最後まで聞くことができないときがあった。
4 教科指導で	15 その他具体的に	#N/A	事前に構想を立ててから話そうに心がけるようになった
4 教科指導で	7 生徒への連絡	1 よくなった	重要な事はここに書く(貼る)。など限定することで伝わりやすくなった。
4 教科指導で	#N/A	2 少しよくなった	やりっ放しでなく面談などもすればより効果があったと思う。
6 LHRや特活	4 教科指導で	1 よくなった	興奮せずにルールに基づいて行動できた。
4 教科指導で	7 生徒への連絡	1 よくなった	些細なことでも褒めることで授業に対する態度が良くなり常にノートをとるようになった。生徒から話しかけてくれることも増えたり、挙手をして答えてくれることも増えた。
4 教科指導で	#N/A	#N/A	生徒につたわりやすくなった。
4 教科指導で	15 その他具体的に	2 少しよくなった	ゆっくりと話し、じっくり生徒の声に耳を傾けることで、一方的な指導や連絡にならずに、クラス全体で動けるようになってきた
4 教科指導で	15 その他具体的に	1 よくなった	話を聞くだけでなく、見えるように工夫する
4 教科指導で	15 クラブ活動	2 少しよくなった	ゆっくり時間を取れない時があった
4 教科指導で	15 クラブ活動	2 少しよくなった	褒める点を見つけれないときもある。
4 教科指導で	4 教科指導で	2 少しよくなった	様々なバリエーションを用意する必要がある。
4 教科指導で	4 教科指導で	2 少しよくなった	ゆっくり時間がとれない時があった
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	考えさせる時間をじっくりとれないときがあった。
4 教科指導で	3 朝のSHR	2 少しよくなった	授業中に「わからないときは周囲に質問してよい」、「教員にいつでも質問してよい」「わからないときは助けを借りてよい」等伝え続けることで、苦手な英語にも取り組もうとする姿勢が見えるようになった。
4 教科指導で	2 教職員への連絡	2 少しよくなった	全体的に把握ができるようになった
4 教科指導で	15 その他具体的に	2 少しよくなった	1対1でもそうでなくとも、教員質問するだけでなくこちら側の思いを伝えることは、質問の意味を深めることにもなり、お互いの理解を深めることにもなる。
4 教科指導で	2 教職員への連絡	2 少しよくなった	こちら側が構えてしまった
4 教科指導で	7 生徒への連絡	1 よくなった	生徒が授業での目的を持って作業が出来るようになった。専攻班での実習では、目的を持って、作業が出来るようになった。
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	目標に向かってしっかり取り組めた
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	一部の生徒ではあるが、興味関心を持った生徒が出てきた。
4 教科指導で	#N/A	2 少しよくなった	答える「最初の文字は」「カタカナ4文字」などヒントを出すか答えてくれるし、逆に生徒から「最初の文字は？」とヒントを求める動きも出た。
6 LHRや特活	4 教科指導で	2 少しよくなった	なるべく前向きな言葉を使って話そうになった。
4 教科指導で	15 その他具体的に	2 少しよくなった	授業前に構想を考えてから話そうに心がけるようにした
6 LHRや特活	15 クラブ活動	1 よくなった	大切な話をするときに、しっかり聞けるようになった。
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	事前に授業を組み立ててから話をするようになった
4 教科指導で	4 教科指導で	3 変化なし	今年初めてだったので、今から始めてみたい。
4 教科指導で	2 教職員への連絡	2 少しよくなった	多くの生徒が感謝されることになれて、動きが変わったように見えた。
6 LHRや特活	4 教科指導で	2 少しよくなった	生徒が目的をもって、行動できるようになってきた。
6 LHRや特活	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	一部の生徒であるが、他人に対する見方に変化があった。
4 教科指導で	5 教材	2 少しよくなった	部分的であるが、興味関心を持たせられた
4 教科指導で	4 教科指導で	2 少しよくなった	授業中生徒の方から発言する機会が多くなった
#N/A	#N/A	#N/A	
15 相談活動	15 保健指導	#N/A	生徒の反応・理解度を見ながら展開できるようになった
#N/A	7 生徒への連絡	1 よくなった	生徒が授業での目的を持って作業が出来るようになった。専攻班での実習では、目的を持って、作業が出来るようになった。
5 教材	4 教科指導で	1 よくなった	自主性をもって、行動でき、話し合う大切さがわかるようになった。
4 教科指導で	4 教科指導で	2 少しよくなった	興味をもって取り組む生徒が出てきた
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	生徒の内面を見つめることで、生徒との距離が少し近くなったように思う。
4 教科指導で	15 クラブ活動	2 少しよくなった	生徒の理解度をよく見て取り組むようになった
4 教科指導で	7 生徒への連絡	2 少しよくなった	普段のコミュニケーションを心掛けることで生徒との接する機会が増えた
4 教科指導で	5 教材	2 少しよくなった	作業内容の説明を区切ってすることで、説明後、すぐに実習に取りかかれる生徒が少し増えた。
15 レファレンス	15 図書館での指導	2 よくなった	生徒が自ら話そうになってきた コミュニケーションがうまくいくようになってきた
5 教材	4 教科指導で	1 よくなった	目標に向かってしっかりと頑張ることができるようになった。

「キャリア教育・就労支援」啓発映画会について

滋賀県立湖南農業高等学校

1 目 的

昨年度より文部科学省の研究指定を受け、特別支援学校や労働・福祉の関係機関からなる就職支援ネットワーク会議を設置し、生徒個々の状況に応じた支援を行うほか、高等学校段階における系統的なキャリア教育の充実を図っている。

この一環として「キャリア教育・就労支援」啓発講演・映画会を実施し、将来を見据えたキャリア教育を行うことにより、生徒の勤労観や職業観の育成、および保護者への啓発活動の一助とする。

2 日 時

平成27年12月16日（水） 9：30～11：40

3 場 所

栗東芸術文化会館さくら（栗東市纒二丁目1番28号 TEL 077-551-1455）

4 参加者

全校生徒および教職員・保護者

5 日 程

- 9：20 生徒玄関前集合
- 9：30 開場
- 9：40 点呼（大ホール）
- 9：50 開会あいさつ
- 10：00 映画上映
- 11：26 映画終了・閉会あいさつ
- 11：40 終了・現地解散

6 内 容

映画鑑賞「夢は牛のお医者さん」86分（ドキュメンタリー映画）
（ストーリー）

新潟県山間部にある全校児童9人の小学校。ここで児童全員が牛を飼育する取り組みが行われた。心を込めて育てた牛を出荷する日、子どもたちは別れの涙に暮れる。

映画は、それから後26年間にもわたって、その中の一人の少女を追いつける。小学校3年生だった彼女は、まるで友達同士のように親身になって牛の世話をするうち、「牛のお医者さん」になりたいと思うようになった。

その夢をあきらめずに獣医になる。牛は巨大なので、女性獣医師には扱いが難しい。結婚、出産、子育てを経て、子育てしながらも新潟県の畜産農家から絶大な信頼を得るまでになる。

「キャリア教育・就労支援」啓発映画会 生徒アンケート集計

1 「夢は牛のお医者さん」の映画内容について

	とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
1年1組	4人	28人	5人	0人
1年2組	3人	19人	10人	1人
1年3組	6人	22人	4人	0人
1年4組	11人	16人	2人	1人
2年1組	5人	26人	2人	0人
2年2組	6人	24人	1人	2人
2年3組	2人	29人	2人	1人
2年4組	7人	15人	1人	0人
3年1組	8人	20人	5人	1人
3年2組	9人	22人	1人	2人
3年3組	6人	24人	2人	0人
3年4組	7人	13人	2人	1人
合 計	74人	258人	37人	9人

2 印象に残ったシーン・共感したシーンはどんなところですか。

- 親が子どもの夢を応援しているところ ○牛と遊ぶところ ○牛の卒業式
- 牛との別れ ○夢に向かって努力している姿（5人） ○牛の出産
- 自分の夢が叶ったところ ○牛との別れ
- 子どもの服に牛の絵が描いてあって、本当に牛が好きなんだと思った。
- 獣医として活躍しているところ ○牛の眼がうるうるしているところ
- 牛のブラッシング ○家畜として動物を扱うところ
- みんなで牛を育てているところ ○夢に向かって努力している姿（3人）
- 牛が病気になったことで獣医を目指そうとしたところ ○豚が経済動物だということ
- 牛に注射を打つところ（2人） ○努力して診断が早くなったこと

3 今回の映画は、普段の生き方を一歩前に進める上で、元気や勇気を与えましたか。

	強く与えた	一定与えた	あまり与えなかった	全く与えなかった
1年1組	3人	22人	11人	1人
1年2組	3人	18人	9人	3人
1年3組	5人	16人	9人	1人
1年4組	6人	18人	2人	1人
2年1組	4人	17人	10人	2人
2年2組	4人	14人	10人	5人
2年3組	3人	21人	8人	2人
2年4組	2人	16人	5人	0人
3年1組	4人	17人	9人	3人
3年2組	7人	18人	7人	2人
3年3組	6人	18人	8人	0人
3年4組	7人	11人	3人	5人
合 計	54人	206人	91人	25人

4 働くことはどういうことだと感じましたか。

- 達成感があるもの ○夢を叶えること ○生きるために大切なこと
- 生きること ○すがすがしいこと ○社会に貢献すること
- 最後まで責任を持つこと ○生きがいになるもの ○社会の歯車になること
- つらいけれど楽しいということ。 ○人の生き方が表に出ること。
- 少し感情を捨てなければいけない時がある。 ○好きなことだと乗り越えられる。
- 自分の夢を叶えること ○自分を成長させてくれたりする。
- お金を得ること。 ○人のためにも自分のためになること
- みんなの支えがあって仕事ができている。
- 自分の好きなことなら楽しく働ける。 ○自分のなりたい職業に就くこと。
- 生活すること ○周りの人からいろんなことを教えられること。
- 大変だけど、自分のしたいことだとがんばれるのではと思いました。自分のために、学んでいくために大切なことだと思います。
- 自分のつきたい仕事、そうでない仕事でも全力で頑張ること。
- 世界を動かすための要員になること ○生きていくためにひつようなこと。
- 楽しそうだ。(3人) ○楽しいことも辛いこともあると感じた。
- やりたい仕事で働くことはとても大変なことだと感じた。 ○責任を持つ(2人)
- 今頑張ったら働くことに楽しみを見つけられると思う。
- 誰かの役に立てること。 ○自分の好きな仕事ができるってすごいことだなって思った。
- 好きなことなら楽しい。 ○たくさんの人の助けになること。
- やっぱり好きな仕事をやるのが一番だな。 ○自分を高める
- 誰かのために、自分のために動くこと。 ○自分の気持ちが必要
- 食に関する仕事に就くので、人の命を預かっているのと同じだと思うので、命を大切にしていけることが大事だと思う。 ○努力の積み重ねだと感じました。
- 誰かの役に立つこと(2人) ○一貫して思いを持つこと。
- 好きな仕事で褒められたり、生きがいを感じたり、これが働くことなんだと思いました。

5 今、将来に向かって夢を持っていますか。

	はっきりと持っている	漠然と持っている	持っていない
1年1組	8人	11人	18人
1年2組	5人	17人	8人
1年3組	5人	13人	13人
1年4組	3人	18人	7人
2年1組	4人	14人	13人
2年2組	8人	13人	12人
2年3組	6人	15人	12人
2年4組	4人	14人	4人
3年1組	5人	19人	11人
3年2組	8人	15人	11人
3年3組	9人	14人	8人
3年4組	10人	11人	4人
合 計	75人	174人	121人

「キャリア教育・就労支援」啓発講演会 事後アンケート

平成28年3月17日（木）

津軽三味線師匠

三絃辰絃流 藤元会 代表 藤元 辰也 さん

1 今日の講演内容について

	とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
1年1組	13人	24人	1人	0人
1年2組	7人	27人	1人	0人
1年3組	20人	16人	0人	2人
1年4組	15人	13人	0人	0人
2年1組	17人	13人	0人	0人
2年2組	16人	14人	0人	0人
2年3組	13人	19人	1人	1人
2年4組	8人	10人	1人	0人
合 計	109人	136人	4人	3人

2 印象に残ったのははどんなところですか。

	話の内容	津軽三味線の演奏
1年1組	3人	16人
1年2組	14人	24人
1年3組	4人	33人
1年4組	5人	35人
2年1組	6人	25人
2年2組	5人	25人
2年3組	9人	29人
2年4組	3人	16人
合 計	49人	203人

3 今回の講演は、あなた自身の進路を考えるきっかけになりましたか。

	なった	ならなかった
1年1組	18人	19人
1年2組	14人	20人
1年3組	24人	15人
1年4組	20人	8人
2年1組	14人	15人
2年2組	21人	13人
2年3組	19人	15人
2年4組	13人	6人
合 計	143人	111人

4 今回の講演は、普段の生き方を一歩前に進める上で、元気や勇気を与えましたか。

	強く与えた	一定与えた	あまり与えなかった	全く与えなかった
1年1組	6人	25人	7人	0人
1年2組	3人	20人	10人	1人
1年3組	9人	26人	4人	1人
1年4組	5人	20人	3人	0人
2年1組	7人	16人	5人	1人
2年2組	6人	24人	0人	1人
2年3組	2人	20人	9人	2人
2年4組	3人	12人	4人	0人
合 計	41人	163人	42人	6人

5 働くことは特にどういうことだと感じましたか。

	辛い大変なこと	楽しく夢のあること	人の役に立つこと	その他
1年1組	12人	15人	6人	5人
1年2組	15人	10人	10人	2人
1年3組	9人	21人	11人	0人
1年4組	14人	8人	6人	1人
2年1組	10人	10人	10人	2人
2年2組	10人	13人	8人	0人
2年3組	10人	12人	8人	4人
2年4組	5人	7人	5人	2人
合 計	85人	96人	64人	16人

6 今、将来に向かって夢や目標を持っていますか。

	はっきりと持っている	漠然と持っている	持っていない
1年1組	7人	10人	19人
1年2組	6人	18人	12人
1年3組	5人	11人	23人
1年4組	7人	9人	12人
2年1組	7人	15人	8人
2年2組	6人	12人	10人
2年3組	11人	11人	11人
2年4組	3人	8人	8人
合計	52人	94人	103人

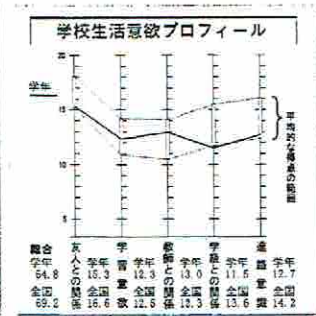
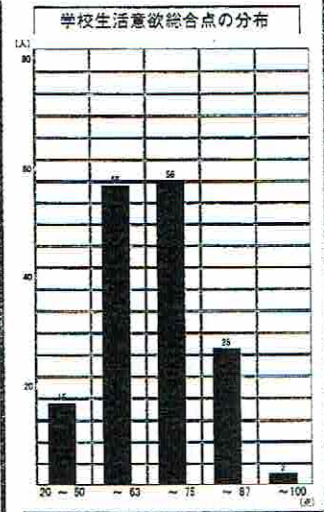
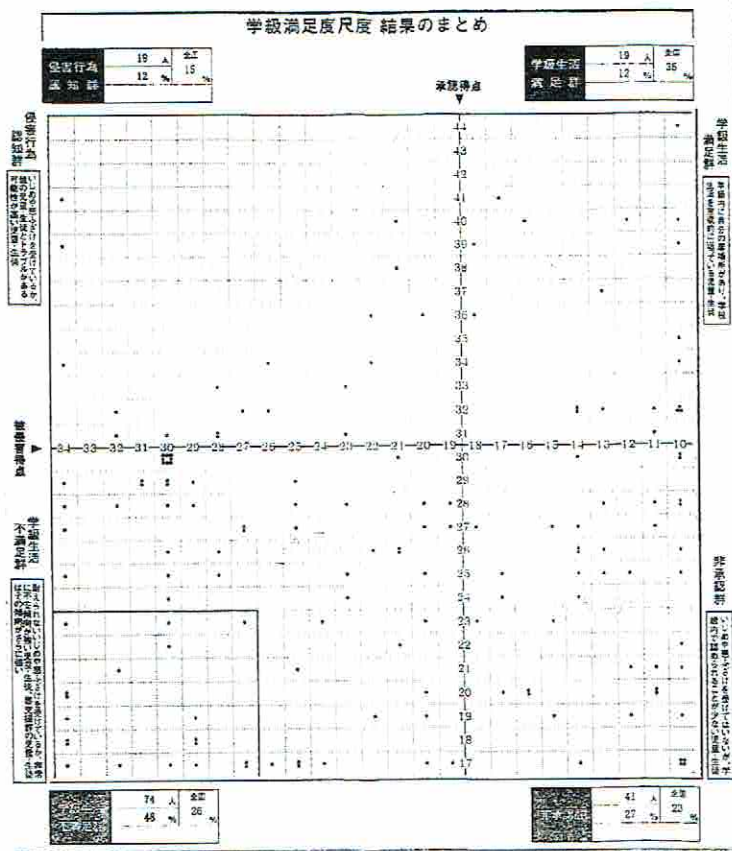
7 今回の講演で感じたことや考えたことがあれば書いてください。

- ・生で津軽三味線を聞き感動した。体の芯まで響き渡った。
- ・まずは何でもやってみることが大切なんだと思った。
- ・いろいろな生き方があるんだと思った。
- ・演奏を聴いて鳥肌が立った。
- ・行動力は大事だと思った。何歳からでもスタートを切ることができる。
- ・夢があるのは大切なことだと思いました。
- ・藤元さんは無理だったらすぐやめていいと言っていました、自分は違うと思います。
- ・三味線だけで強弱がつけられることに驚いた。

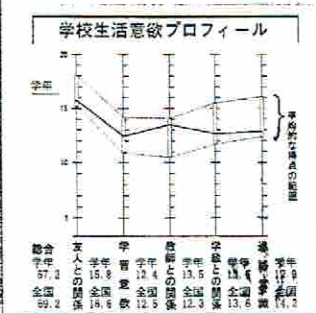
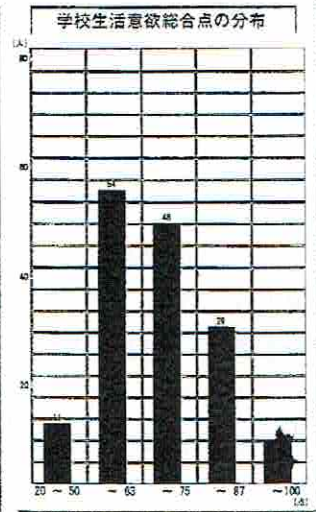
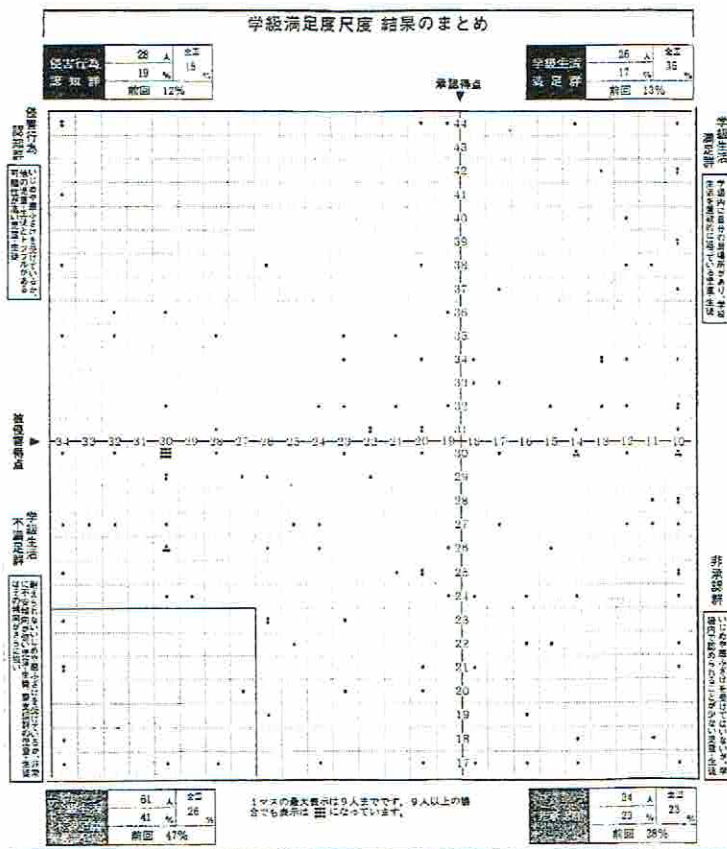
- ・三味線を聞いて自分も今頑張っていることを一生懸命しようと思えた。
- ・人間案外どうにかなる。
- ・出会いの大切さを学んだ。
- ・人生の大切さと大変さを知れた。
- ・強い精神力を持たないといけないと思った。
- ・今を楽しもうと思った。
- ・人間は人がいないと生きていけないことを深く考えさせられた。人との出会いを大切にしようと思った。
- ・夢や希望に向けて自信が持てました。
- ・何の取り柄もない自分を好きでいてくれる人を大切にすること。できるできないじゃなくて挑戦するようにしたい。夢を持ちたいと強く思った。
- ・人と出会うことで、思わぬことになることもあるんだなあと思った。
- ・自分の夢に向かってがんばれる力をもらえた。
- ・やりたいことはやったほうがよいと思った。
- ・自分の人生は自分の物だから、すべて自分次第だと思った。
- ・自分のやりたいことをやりたいときにできることっていいなって思いました。
- ・人生っていろいろある。
- ・今夢があったとしても、将来はどうなるか本当にわからないんだなと思いました。
- ・三味線のイメージが変わった。
- ・これから先、何かしたいことを見つけたいと思った。
- ・興味がなかったことでも、しっかりしたらできるんだなと思った。
- ・夢のために頑張っても夢が叶わないよなと改めて思った。
- ・何事にも挑戦するのは大切なんだと学びました。
- ・三味線をやってみたいと思った。
- ・三味線を弾いている姿がかっこよく見えてすごいと思いました。
- ・何気ないきっかけが仕事になったりするんだなと思いました。
- ・自由に楽しくしていくのが、一番楽しく、やりがいを感じながらできるのかなと思いました。
- ・この人は破天荒なんだと思った。
- ・何も夢もなくても、どこかにはたどりつくのだなと思いました。今まで歩いてきた道があるからこそ今がある。だから無駄な時間は無いと思う。
- ・人は人。人のサクセスストーリーが必ずしも自分にも当てはまるわけじゃないと思った。
- ・ゆっくり考えていこうと思いました。
- ・将来は不安だらけだけど、がんばればいつかはなんとかなると思いました。
- ・自分のやりたいことが変わっていったとしても、それに挑戦することが大切だと思いました。
- ・自分の人生は自分のものでいいんだと感じました。
- ・ぞわぞわと何かを感じた。
- ・きっかけは急にくるもんやと思った。
- ・津軽三味線の演奏一つ一つの自由な弾き方、勢い、そして楽しさが伝わって来ました。

9月実施結果（学年全体）

資料 12



12月実施結果（学年全体）



〈9月実施結果から（校内委員会での所見）〉

- 全体として「学校生活不満足群」、「非承認群」に多く分布している。
全国平均と比べても、その割合が高い。
- 「学校生活意欲プロフィール」の各領域においては、平均的な得点の範囲に入っているが、「学級との関係」や「進路意識」が満足度を下げている要因と考えられる。しかし、教師との関係が高めであることが救いとなっている。
- 特別支援対象の生徒としている生徒は、「要支援群」に入っている生徒から、高い満足度を感じている生徒まで分布が広がっている。
- 「要支援群」に入っている生徒には、特別支援の対象になっていない生徒も含まれている。教職員が、特別な支援を見落としている可能性、また、孤立したり、トラブルを抱えていたり、いじめを受けていたりと生きることに辛さを感じていることも考えられることから、個別の対応が必要である。
- 毎日生徒と接していくことも大切だが、日常の学習でのフォローやキャリア教育等の取り組みによって、自分で社会に参画していく力をつけることも必要。
- 本校に入学してくる生徒には、集団生活の中で「人と協力してつくり上げる」ことや、「人と関わって達成感を得る」ような経験が少ない生徒が多いとも考えられ、今後は、特に「要支援群」に属する生徒には、文化祭等の取り組みにおいても、この点を意識してフォローしていく必要がある。

〈9月実施結果と12月実施結果との比較から（校内委員会での所見）〉

- 9月実施結果と比べて、全体として「学校生活不満足群」「非承認群」、「要支援群」が減少した。
- 「学校生活意欲総合点」の分布においては、75点以上の分布が伸びている。
- 「学校生活意欲プロフィール」の各項目においてポイントが上昇している。
- 担任教員との振り返りの中では、友達や教員とのつながりが深まっていったこと、また、生徒の人間関係の改善に複数の教員が当たったこと等が功を奏している。
- 実習を通じて仲間ができ、生徒に笑顔が見られるようになってきた。また、インターンシップで自信もついてきた。農業高校ならではのメリットを活かした取り組みができている。
- 養護学校の先生からのアドバイスとして、小学校高学年での活動事例からは、大人が計画的に同年代で達成していくための経験作りをさせるような集団づくりが必要とのことである。
- 進学・就職の進路希望別でみると、進学組が意欲を持ちだした一方で就職組には、目標が定まっていけない傾向が見られる。就職で夢は語れないのだろうかという思いもある。
- キャリア教育の取り組みとともに、担任を中心として、生徒個々に関わってきた成果が12月実施結果に見られる。

「トモちゃん、私に出来ること、何かない？」

～Aさんとのかかわりから「進路保障」を考える～

滋賀県人教・県立湖南農業高等学校 小林 朋美

はじめに

私は、2014年4月に湖南農業高校に新規採用となり、初任で1年・花緑科の担任をすることになりました。どんな生徒が入学してくるのだろう…毎日名簿を見ながら、期待とともに責任を感じていました。とにかく元気で明るいクラスにしたい、そして入学してくる子たちが本校に入学して良かったと思ってもらえるようにしたい…などとあれこれと考えながら、入学の日までを過ごしていました。そして、入学式当日を迎えました。

1年生のAさん

Aさんは入学式以降、遅刻や欠席もなく、まじめに授業を受け、友達と仲良く過ごしていました。中学校の先生から「勉強はちょっと苦手だけれども、授業をまじめに受ける、やさしい生徒である」と聞いていた通りの滑り出しでした。しかし、最初の中間考査の結果を見て、私はAさんの今後がとても心配になりました。Aさんはまじめに授業を受けていたのですが、考査の結果は高校で「進級」するにはあまりに厳しい点数でした。頑張っているAさんを進級させることが出来るか、正直私は心配になりました。小、中学校ではどんな風に勉強してきたのか、どこまで学習内容を理解しているのか、学校生活の中で、どんなしんどさを感じているのかなど、いろいろなことが気になり始めました。しかし、私のクラスの生徒なのだから、考えられる限りのことをしたいと思い、まずはAさんをもっとよく知るために、本人といろいろな話をしました。Aさんと話したり、関わってもらっている先生方にも相談する中で、覚えることが苦手ですぐ忘れてしまうために、提出物が期限までに出不来ことや、小さな頃のつまづきもあって語彙が少なく、自分の気持ちや自分に起きた出来事などを、順序立てて説明することが苦手であることなどがわかってきました。私はAさんとこれらの「苦手」を確かめながら、どのように工夫すれば、自分が感じるしんどさを少なくすることができるかを一緒に考えようと話しました。しかし、この時点でのAさんは、「やってもできない。どうしたらいいのか分からない。」という気持ちが強く、私自身もはっきりとした手応えを感じられませんでした。できることは忘れないようにメモをする、分からないことはすぐ先生に聞くなど、「自分でできることをまずやってみよう。」と提案し、Aさんも「やってみる。」と言ってくれました。また、忘れ物をしないようにAさんがよく目にする場所にメモを貼ってもらうなど家庭にも協力をお願いしました。

Aさんの家族は、祖父母、父、Aさんの4人です。Aさんが生まれてからすぐに両親は離婚し父に引き取られたのですが、Aさん自身は祖父母の家で暮らしており、父親とは現在、別々に住んでいます。家が近いので晩ご飯は、祖父母の家で4人で食べたり、休みの日は父と一緒に過ごしたりと仲良く過ごしています。家では、洗濯や料理の手伝いなどをする家族思いの生徒でした。

夏休み中に、Aさんが住んでいる地域の生徒の様子について、保幼小中高の先生が集まって話し合いをする機会がありました。そこで、Aさんの身内の多くが高校に行っていないか、または中退しているという話を聞いて、私の中では、Aさんには絶対、高校を卒業してほしいという気持ちが強くなっていきました。そんな話を聞いた直後、Aさんのことで父親からプライベートな相談を受けました。その事でAさんの家族やAさんと話す中で、「家族やいろんな人が心配してくれている。もう心配かけたくないし、高校を頑張りたい。」というAさんの気持ちを聞くことができました。私は、Aさんには絶対高校を卒業してほしいと思っていることを伝え、そのための応援を頑張りたいと伝えました。Aさんは「頑張るわ、トモちゃん、ありがとう。」と言ってくれましたが、Aさんの心の中に大きな寂しさの固まりがあることを私はこの時ほんやりと感じました。

2学期に入るとAさんは、「私は嫌われてるような気がする。学校をやめたい。」と言って来ました。話を聞くと、小中学校でも悪口を言われたりいじめられたりしてきた体験があり、今までは誰にも言ったことがなく、こんな話をしても先生には迷惑だと思っていた、ということでした。私は

その時、「しんどいこと、言いにくいことを言ってくれてありがとう。そんなのは迷惑じゃないし、先生はAさんの味方だよ。一緒に2年生になろう!」とAさんに伝えました。そんな話を何度も繰り返し、何とか学校をやめたいという気持ちを留まらせることができました。それ以降、考査前の放課後は一緒に勉強をし、考査範囲や提出物の確認をしました。私はAさんが前向きに勉強できるような声かけを心がけ、Aさんが勉強で分からなくて不安に感じているときは、「大丈夫だよ」と伝え、出来る限り一緒にいるようにしました。そんななかかわり続ける中で、徐々にAさんは、「勉強をされていて分かった時は、めっちゃ楽しいな。」と言ってくれるようになり、学習にも学校生活にも前向きに取り組むようになっていきました。

2学期中頃、クラスメイトが机に落書きされるという事件が起きました。すぐに緊急の学年集会を開きホームルームでもずっと話し合いをしたのですが、その日の昼休みにAさんが話したいと言って私のところへ来ました。Aさんは泣きながら「トモちゃん、私に何かできることはない? できることがあったら協力したいねん。」と言ってくれました。私は、Aさんがそんな風にクラスのことを感じてくれたことがうれしく、そして何よりAさんの人間的な成長を感じました。この頃になると、Aさんの頑張りは他のクラスメイトに大きな影響を与えるようになっていて、「Aさん、頑張ってるすごいなあ、私も頑張るわ。」「Aさんは自分もしんどいの、私たちのこと考えてくれてるんやな。」と言う声が周囲から聞こえるようになり、Aさんに対する見方は大きく変化していました。

ある時、Aさんが自分の家庭のことについて話してくれました。「洗濯やご飯の用意とか、家の手伝い大変やねん。トモちゃん、私のお母さんになってよ。」と言われた時は正直、どう返していいかわかりませんでした。Aさんは家に居ても寂しくて、寂しさを紛らわすために外に出ていることがわかってきました。そこで加配の先生から会館の方をお願いして、自主活後の時間に会館でも勉強を見てもらうことにし、出来るだけいろんな人に関わってもらうようにしました。極力Aさんをひとりぼっちにしないことと、いろんな大人に出会うことが大切だと感じたからです。それでも、家にあまり帰りがたがらない日が続いたので、学校にいる時間は出来るだけ一緒にいるように心がけ、2年生の進級に向けて勉強を続け、何とか努力が実ってAさんは2年生になりました。

2年生になって

2年生に進級したAさんは、1年生の時と変わらず、毎日学校に来て落ち着いた学校生活を送っていましたが、5月の連休明け、突然教室に入れなくなってしまうことが起こりました。教室の前に行くと、足がすくみ、泣いてしまう。時には過呼吸を起こしてしまう状況が約一週間続きました。それでもAさんは、中間考査を控えていたので毎日学校にきて、教室に入ろうとしました。私もAさんに寄り添い、教室の前まで一緒に行くことを続けました。この頃のAさんは、1年生の時からずっと頑張ってきた疲れが出てきたようで、教室に入れない時は、無理させずに別室で話をしたり、教科の勉強をしたりして一緒に過ごしました。その後、少しずつ教室に入れるようになり、現在では、元気に過ごしています。一学期末の欠点はゼロ、あれほど苦手だった数学では70点をとることが出来ました。最近のAさんは、わからないことがあるといろんな先生に質問に来ます。わからないことがあると「わからない。」「困ったことがあると「困った。」と素直に言ってくれるAさんの姿が今、私にはとてもうれしいです。

今後に向けて

1年前のAさんは、自分の気持ちをうまく伝えることができず、勉強の仕方が分からず、そんな自分のしんどさをうまく表現することができずにいました。しかし今は、自分の成長や成果を発見し、自分の感情を伝え、自分なりのやり方で頑張ることができるようになりました。この間、私は取り敢えず一緒にいることしかできませんでしたが、いろんな人に出会い、いろんなことにぶつかる経験を重ねて、Aさんの成長を実感します。

以前の私は、取りあえず高校を卒業した後の出口を考えるのが教師の仕事だと思っていましたが、今、私は、Aさんが湖南農業高校を卒業し、十年、二十年後に社会で困った場面に出くわしても、それを越えていけるから、自分の人生を切りひらいていくちからを身につけられるように、私はAさんにかかわり続けたいと思っています。勿論、上手くは出来ませんが、今まで通りAさんやクラスの人々と、わちゃわちゃしながら互いの「経験値」を高め合いたいです。学校で出会って、その人の人生の勝手な関係者の一人になることが、「進路保障」の入り口かな?と、最近、私はぼんやり考えています。

平成27年度文部科学省委託
「キャリア教育・就労支援等の充実事業」研究紀要

平成28年 3 月 発行

発行者 滋賀県立湖南農業高等学校

〒525-0036 滋賀県草津市草津町1839

TEL 077-564-5255 FAX 077-562-1186

